

小坂公一展

「奇跡の根来塗り」



#### AREA New York

172 Madison Avenue, New York, NY 10016, USA  
tel +1 646 590 7277  
mail newyork@area-japan.co.jp

#### AREA Paris

4 rue de l'Université 75007 Paris, FRANCE  
tel +33 (0)1 40 13 04 81  
mail paris@area-japan.co.jp

#### AREA Tokyo

1F 2-10-28 Kita-Aoyama Minato-ku, Tokyo, JAPAN  
tel +81 (0)3 3479 5553  
mail tokyo@area-japan.co.jp

[www.area-interior.com](http://www.area-interior.com)



**AREA**  
NEW YORK | PARIS | TOKYO



## 最後の朱

古来人々にとって特別な色であった「朱」の色。鉱物から作られる辰砂や弁柄、鉛丹などの赤色の顔料は縄文時代には既に神聖なものとされ、死者を弔う際にも用いられたといいます。

血の色であり、火の色であり、太陽の色である朱色が想起させるのは生命や再生の力。真塗と呼ばれる格式高い黒色の漆も人気ですが、黒の漆よりも昔から使われていた朱の漆は長い歴史の中、邪を祓う力を人々に与えてきました。ひとたび漆器に使えば、その神聖な力を秘めた道具になることでしょう。

このたび、木曾の伝統工芸士である故小坂公一氏の遺作展として、中世最高峰の朱の漆器「根来塗」の東京、パリ、ニューヨークでの巡回展示を開催します。

440 年前に一度途絶えた「根来塗」は、2000 年頃に和歌山県岩出市は根来寺にて甦りました。焼物にも負けない堅牢なつくり、数十年使い込むことで見えてくる地の黒の美しさが国内外のコレクターを魅了しています。

生と死を想い、再生を祈る朱色。その精神は、断絶と復興を経て甦った根来塗の歩みとも重なります。

本展に並ぶ作品はすべて、故 小坂公一氏による貴重な一点ものです。再制作はかないません。ぜひこの機会にご高覧ください。

### 高足碗 根来塗

φ115 × 115

¥70,400

ユニークな高足の碗。  
酒や甘味が特別に映える。

(表示価格は全て税込価格です)





瓶子 根来塗

φ205 × 280  
¥495,000

瓶子は根来塗でよく作られた形。一朝一夕では成し得ない木工技術の粋が根来塗の美しさと引き立て合う。

根来塗

根来塗は、室町時代に和歌山県・根来寺（ねごろじ）の僧侶たちの手によって生み出されたとされる漆器の様式です。黒漆の上に朱漆を塗り重ね、長年の使用によって朱が擦れ、黒が現れる——その偶然が生んだ風合いが、「使い込まれてこそ完成する美」として、深く愛されてきました。

小坂公一の根来塗作品をはじめ、現代では根来塗の特徴的な風合いを表現するため、デザインとしてあらかじめ朱漆を削り、下の黒地が見えるよう作られるものもあります。

根来寺の漆器

1585 年、僧兵集団「根来衆」の拠点であった根来寺は、豊臣秀吉による「紀州征伐」によって壊滅的な被害を受けました。その戦火で主要な建物を焼失し、根来塗の製作も途絶えることになります。

ただ、「根来塗」という名前が記述として残っているのは根来寺が滅んだ後の時代のものが大半。江戸時代に至っても、「朱漆の丈夫な漆器」という評価が人々の間には残っていました。

それから約 400 年の時を経て、2000 年 12 月 12 日、根来寺を開創した覚鑑上人の命日に、塗師・池ノ上辰山氏が根来寺の許可を得て根来塗の復興に着手。2007 年には和歌山県の郷土伝統工芸品「根来寺根来塗」として正式に認定されました。



木曾の伝統工芸士 小坂公一

うるし工芸の伝統工芸士である故小坂公一氏は、日本三大漆器産地の 1 つである木曾の地で根来塗をはじめさまざまなスタイルの漆器を作り上げた漆芸の優れ人。根来塗、布目、青貝手（螺鈿）など、卓越した技を惜しみなく使った漆工芸が多くの人に愛されてきました。

「普通の毎日であれ」という思いの中で小坂公一が作り続けた漆器を、みなさまの日常の一部にいかがでしょうか。本展示では、小坂氏が木地作りを学び、生涯を通して塗りの技法を磨き、朱と黒の魅力を追い続けて辿り着いた境地の一端をご覧ください。





### 蓋付大碗 根来塗

φ150 × 135  
¥90,200

これ一つで丼も麺料理も。  
明るい朱色の大碗。



### 蓋付碗 根来塗

φ130 × 120  
¥60,500

食卓を引き締める、脚が高くすっきりとしたシルエットの蓋付碗。



### 蓋付煮もの碗 根来塗

φ145 × 76  
5 客揃 ¥363,000

料理を盛り付ければ懐石料亭の佇まいに。  
蓋つきの上品な煮物碗。



### 蓋付朱碗（小）根来塗

φ127 × 105  
5 客揃 ¥363,000

5 客揃の蓋付碗。普段使いにも、お祝  
いなどの集まりにも。







菊花彫茶入 根来塗

φ75 × 80  
¥363,000

菊花の意匠を緻密に削り出した茶入。  
繊細さと無骨さを両立した魅力がある。



黒模様 椀 根来塗

φ125 × 60  
¥53,900

力強い筆致の朱漆から覗く黒が印象的な存在感溢れる椀。



角皿 根来塗

230 × 230 × 10  
5 枚揃 ¥182,600

載せる料理を華やかに引き立てる使い勝手の良い5枚揃の角皿。



隅切重箱 小皿 根来塗

重箱 285 × 140 × 180 / 小皿 140 × 140 × 21  
¥616,000

皆が集まる食事の席に、料理が華やぐ根来塗の重箱。





#### 輪花彫り 蓋付菓子器 根来塗

φ230 × 60  
¥211,200

とっておきのお菓子を入れたくなる輪花形の器。



#### 平皿 根来塗

小 φ180 × 20 / 中 φ210 × 20 / 大 φ240 × 20  
小 ¥25,300 / 中 ¥30,800 / 大 ¥33,000

シンプルで使い勝手の良い平皿。



#### 二段小型弁当 根来塗

175 × 100 × 85  
¥67,100

毎日のお弁当を少し豪華に。少人数用の重箱としても使いやすい。





堤手三段重箱 根来塗

200 × 110 × 175  
¥79,200

三段重ねの料理を小粋に持ち運べる重箱。  
びたりと重なる正確無比の本地造りに高い技量が表れる。



黒模様 平皿 根来塗

φ212 × 21  
¥40,700

使っても飾っても楽しめる平皿。



蓋付三つ脚器 根来塗

250 × 250 × 140  
¥265,100

胡桃の持ち手がアクセントになった区切り付きの器。  
使い方は無限大。







片口 根来塗

85 × 150 × 70

¥71,500

片口に注いだ日本酒を楽しみながら  
ゆったりと過ごしたい時に。



隅切膳 根来塗

345 × 345 × 30

¥118,800

「朱漆で塗った根来寺の折敷」は 400 年前の記述が  
残るほど有名だった。歴史を日常使いできる一品。



酒杯

φ80 × 95

¥26,400

ひとりで過ごす晩酌のために、特別な一杯を。



姫椀

φ105 × 75

¥34,100

緑反りのシルエットが可愛い小振りな椀。



### 大平椀

φ150 × 90

¥49,500

麻布をあえて表に出した、手に馴染む質感を楽しめる椀。



### 平椀

φ130 × 85

¥37,400

溜色の漆が美しい椀。丼ものや麺料理に最適。



### 手掘り弁当

170 × 100 × 60

¥52,800

篆書の風情が唯一無二の弁当箱。小物入れにも適したサイズ。



### 丸弁当

160 × 105 × 50

¥25,300

軽くて丈夫、中身が映える。食事の時間が楽しめる弁当箱。



### 姫椀 太輪

φ120 × 75

¥34,100

片手で包み込める大きさの普段使いに適した椀。



### 姫椀 四ツ石

φ105 × 75

¥34,100

椀底に描かれた四ツ石の紋が、静かにその歴史を物語る。



### 姫椀 三ツ鱗

φ110 × 60

¥30,800

スタンダードな椀だからこそ、何十年も使える漆の丈夫さが活かされる。